令和元年度　小学校教員向け環境教育研修会　実施報告
「やってみよう！環境学習プログラム」
第１回「里山で体験！昔の暮らし」（テーマ：生活）

□実施日時　　令和元年７月２５日（木）　１０時００分～１６時１５分
□受講者数　　１３名（教員１０名、研修・聴講者３名）
□実施場所　　七国山緑地保全地域、新七国山会館（町田市山崎町）
□実施内容

【午前】

１．事務連絡・開講挨拶等

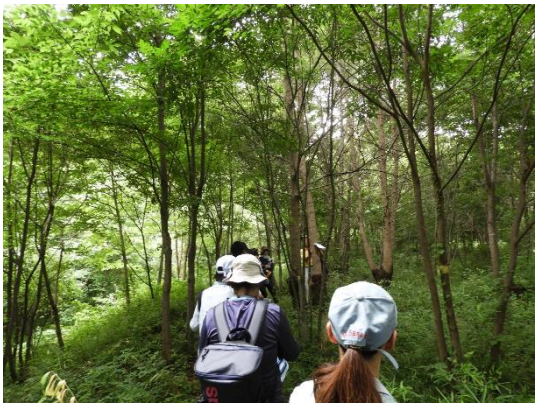
・事務局から受講上の注意、全体スケジュール等の説明
・環境局総務部環境政策課から開講挨拶等

２．　ゲストティーチャーからの講義・体験

（ゲストティーチャー：七国山自然を考える会
会長　塩田善孝氏、向山崇久氏、田所衛氏）

（１）七国山緑地保全地域での自然観察

・ゲストティーチャーから里山の動物や植物について説明を受けながら、緑地保全地域内を自然観察。七国山緑地保全地域は、「鎌倉古道」の遺構もあり、自然と歴史を感じることができる。



（２）実習（草刈り）

・刈りこみばさみを持って、新規保全地域の下草刈り。草刈りをすることで、多様な植物が育ちやすい環境になる。

【午後】

３．七国山の自然について「里山の植生史」

（ゲストティーチャー：七国山自然を考える会　向山崇久氏）

・午前中の自然観察を振り返りつつ、七国山緑地保全地域の昔の写真や文献から、里山の自然や役割がどのように推移してきたのか説明。

４．環境学習プログラム「昔の暮らしから学ぶ」の紹介及び実習

（講師：NPO 法人環境学習研究会理事長　谷村春樹氏）

（１）環境学習のポイント　～体験の重要性・森は命のみなもと～

・子どもたちは、体験を通して、「森は命のみなもと」であることを知り、自然を大切にする人間に成長する。
・環境学習には知識と体験の相互作用が大切。教科学習の土台があるから環境学習ができる。
・環境学習は自分の問題として気づきを促す手法。暮らしの中や地域での実践、様々な人と関わることによる成長や感動、ふるさと意識の醸成にもつながる。

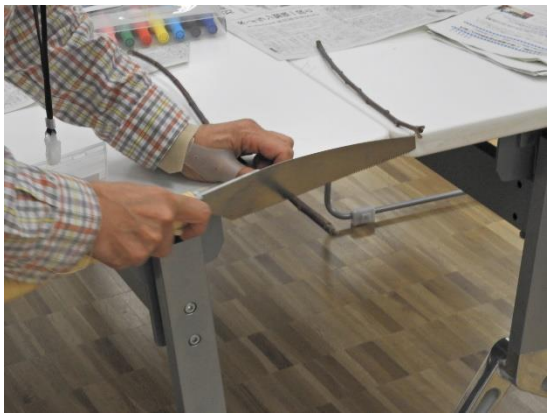
（２）昔の暮らしから学ぶポイント解説

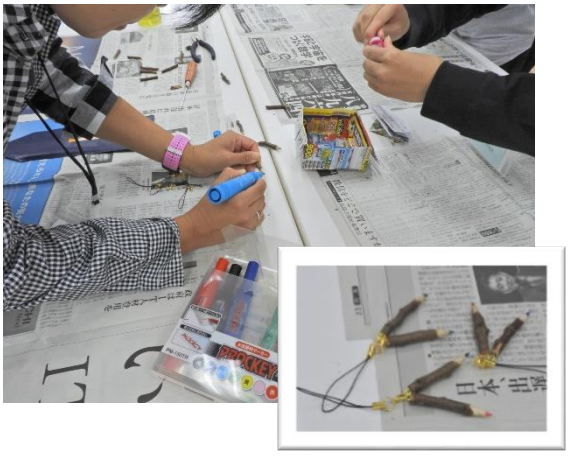
・体験することが大切なので、“昔の暮らしの疑似体験ができる場所”“昔の暮らしを知っている人”を探して体験学習をする。
・昔の暮らしの中に、今に生かせることがあれば、生かす工夫を考える。
・昔の方がいいという話ではない。自然に生かされているということを子どもたちに伝えることが大切。

（３）「昔の暮らしから学ぶ」プログラム紹介と体験

昔と現在の道具や暮らし方の違いを比べることによって、子供たちの感性を磨き、「もったいない」や「道具の使い方」を工夫することによって安全でより環境に優しい生活を考える力を育てるプログラム。

・昔と今の生活用品の比較（おひつ、湯たんぽ、風呂敷など）
・里山の活用
・桜の枝を使ったエンピツストラップ作り体験





（４） まとめ（質疑応答及び受講者同士の情報交換）

この日の研修を通じて、気づいたこと、感じたこと、授業での活用方法や各学校で実施した関連事例等について、グループごとに発表し、受講者で情報を共有。

（発表意見の例）

・環境学習に興味がある。現場に取り入れていくのが難しい面もあるが、ライフワークとして係わっていきたい。
・近くには自然がなく、自分も体験していない。子どもたちに環境教育を行う上で、今回の体験を活かしていきたい。
・総合で何をするか、引き出しを増やすために参加した。
・里山は一年を通じて手をかけていることが分かった。
・自分自身が体験したことを話すと、子どもたちの食いつきが違う。４年生の環境学習で、体験させることができたらと思う。

５．事務連絡、アンケート記入等（事務局）

アンケート提出後、解散